

新体制への抱負

玄米酵素 岩崎輝明 会長に聞く

1971年創業で、玄米発酵食品「ハイ・ゲンキ」を訪問販売している玄米酵素(本社北海道)は今年5月、岩崎輝明社長が会長に就任し、後任の社長に鹿内正孝専務が昇格する人事を行った。岩崎会長と鹿内社長がともに代表権を持つかたちとなる。鹿内新社長が就任した経緯について、同社の創業者である岩崎会長に話を聞いた。



分担当は。

岩崎 鹿内社長には、今までの事業を強化・発展させていくことをやってもらいたいと思っています。会長の私は、固定愛食者60万人の夢を実現すべく、新たなビジネスモデルの構築を行っていく。

— 新たなビジネスモデルとは。

岩崎 当社の7000店の特約店・代理店の中から、サロンオーナーを募集していくが、それだけでなく、お米屋さんや建築業、鍼灸師、整骨院の方など幅広い方々に、全国的に呼びかけていきたいと思っています。小さく古い産業を、新しい産業に変化させなくてはいい。

後世までも社会に貢献し続ける企業へ

えるのではないかと考えている。

— 新社長の鹿内氏は、どんな人物か。

岩崎 北海道銀行(道銀)の元常務で、当社製品の30年来の愛食者でもある。当社が初めて道銀に口座を開設した際の当事者であり、道銀では不良債権の処理に辣腕を発揮した。当社においても、若い人から強い支持を受けている。当社の生え抜きからは、社長の人材がまだ育っていない。一方、鹿内社長は、組織・金融・経済に通じている。鹿内体制で最低10年はやってももらいたいと思っています。

— 会長と社長の役割

業に変化させなくてはいい。

岩崎 サロンを2000店舗作りたという野望を持っている。伝統食を広め、「食事道」を普及していくため、「小資販売店の要望もあって、すでに80店舗を展開している。2022年までに2000店舗という目標を達成したい。

— 会長として今後取り組んでいくことは。

岩崎 現在は12万人。10年間で5倍に増やす計算だ。全人口の0.5%に当たる60万人まで広められれば、社会貢献とい

私は、代表権のある会長として、これからの10年間は人材育成に力を注いでいく。若い人の目標

達成を後方支援していきたい。10年後の2022年までに、60万人の固定愛食者を作るという長期目標に向かって取り組みを進めて行く。

— 現在の愛食者数は。

岩崎 現在は12万人。10年間で5倍に増やす計算だ。全人口の0.5%に当たる60万人まで広められれば、社会貢献とい

1956年北海道生まれ。79年小樽商科大学卒業後、北海道銀行入行、表取締役社長に就任。

鹿内正孝新社長の略歴



80年、株式会社玄米酵素 岩崎社長(現会長)と出会い、以来、玄米酵素の愛食とともに親交を深める。03年同銀行常務執行役員、06年株式会社玄米酵素へ取締役専務として入社、12年5月、同社代表取締役社長に就任。

岩崎 21世紀の発展を担う人材育成が私の仕事だ。明治の文豪、幸田露伴が「惜福・分福・植福」からなる「幸福三説」というのを唱えている。「惜福」とは、福を惜しまないということ。福を使い切らずに、腹八分目を知ることが大事という意味だ。「分福」は福を人にも分け与えるということ。そして、「植福」というのは、福を植えないということ。自分に

見返りがなくても、50年、100年先の後世の子や孫のために、福を植えて行くことが肝心だと説いている。実際に、松下幸之助が松下政経塾を設立したのは85歳のときだ。自らの見返りを求めたものではない。

当社が、2000年、3000年先までも、後世の役に立つ企業で在り続けるため、次なる半世紀に向け、基礎作りを行っていく。